

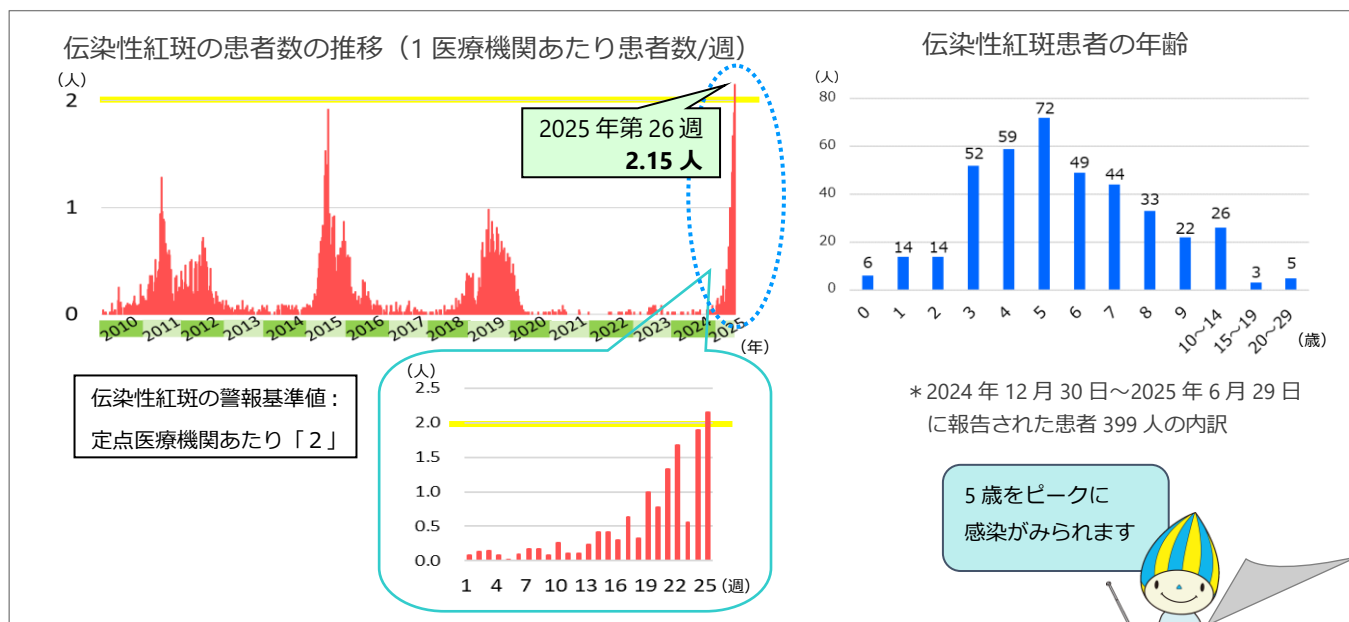
ぎふ感染症かわら版

令和7年7月3日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



伝染性紅斑（リンゴ病）の報告数が警報レベルに達しました！

伝染性紅斑は、ほほが赤くなることからリンゴ病とも呼ばれ、お子さんに多い感染症です。県内では約4年ごとに流行がみられていましたが（2011年、2015年、2019年）、コロナ禍を経て今年は6年ぶりに感染者が増加し、発生動向調査事業が始まった1999年以降、県内で初めて国の定める警報基準値を超えました。



どんな病気？

ヒトパルボウイルス B19 による感染症です。7月上旬にかけて流行する傾向があります。感染すると10～20日後に、**両頬に赤い発疹**や**手足にレース状の発疹**が現れます。また、多くの場合、発疹の前に微熱や咳、くしゃみなど風邪のような症状がみられます。**お子さんがかかることが多く、ほとんどは軽い症状で自然に治りますが、妊婦さんが感染すると胎児の異常（胎児水腫）や流産を起こすことがあります。**

どうやってうつるの？ 予防方法は？

咳やくしゃみのしぶきによる**飛沫感染**や、ウイルスのついた手で鼻や口に触れることによる**接触感染**でうつります。赤い発疹が現れたころには、周りの人にうつすことはほとんどなく、感染力を持つのは発疹が出る前（咳、くしゃみなどの症状がみられる期間）です。ワクチンがないため、**手洗い**や**咳エチケット**など、日ごろの**基本的な予防対策**が大切です。妊婦さんや、妊婦の周囲の方は特に予防に心がけましょう。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

